

神社の杜 (五十二)

「もしかしてオオカミのミイラ?」

片柳 茂生

平成三十年も残すところあとわずかという師走の忙しい時期、玄関先で注連縄を作っている時に宿坊 T からその電話が入ってきました。

「気味の悪い動物のミイラが天井裏から落ちてきた。ちょっと見てくれ。」以前茅葺き屋根の葺き直しの際に猫のミイラが出てきたことあったので、今回もどうせそんな物だろう、なんて思いながら見に行きました。

登山道に面した宿坊の長屋門の軒先に、そのミイラはでんと置かれていました。もうすでに人氣者状態で、登山者も足を止め写真などを撮っています。宿坊の主が言うに、長屋門の大掃除をしていたところ天井が抜け、埃と一緒に落ちてきたとの事。つまりこの生き物は、天井裏に入っていたはいい

が出られなくなってしまう、そのままミイラになってしまった様です。ちなみにこの長屋門、築百年はゆうに経っています。

このミイラ、頭と胴で約五十センチ、尾の長さを合わせれば一メートル近くになります。顔は犬の様に長く歯は鋭い、耳は垂れ、足は長く、さらに尻尾も長い。しかも雄であることも解るほど完璧なミイラです。でもいったい何者なのか、即座に判

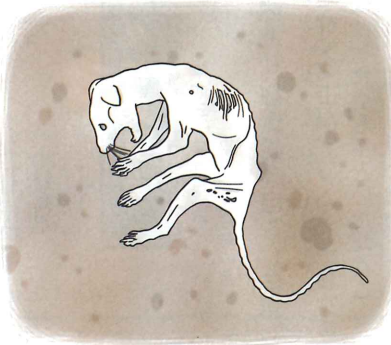
別できませんでした。

猫でないことは頭が細長いこと、明白、テンにしては大きすぎるし足も長すぎる、狸であればもつと尻尾が短いはずである。犬かキツネかはたまたオオカミか、この耳の垂具合なんて大口真神のご神影にそっくりではないか。足の長さも尾の長さも当てはまる。もし

オオカミであるならば世紀の大発見である。でも待てよ、オオカミやキツネならば、天井裏に入り込むことはまず考えられない。天井裏に入ることができる生き物といえば鼠、猫、あとはハクビシンとアライグマ。専門家に見てもらったところ、なんとハクビシンでした。

ハクビシン(白鼻心)は、ジャコウネコ科で、その名のとおり額から鼻にかけて白い線があり、果樹を食い荒らす害獣として知られ、近年では都心でも目撃されることがあるそうです。日本在来の動物ではありませんが、江戸時代にはすでにいたのではないとも言われ、雷獣と呼ばれていたのがそれではないかと言われますが、平成の時代になってから急激に増えた動物であることは間違いありません。

種が判明してみれば、な〜んだと言ったところですが、ほんの少しの間ロマンを与えてくれたミイラでした。



イラスト：紺野美織

敬神奉賛員募集のご案内

当社では、敬神奉賛員を募集しております。敬神奉賛員とは、御嶽大神の御神徳を敬い、皆様との心の拠りどころとして、また武蔵御嶽神社の更なる護持発展を目的に創設いたしました。奉賛員には例祭、祭典・行事のご案内のほか、新年に向けての御神札など各種の特典が受けられます。趣旨にご賛同いただき、ご入会下さいますようお願い申し上げます。

賛助費 五〇〇〇円

※詳しくは、社務所までご連絡下さい。

あとがき

今年の冬は暖冬となりました。普通であれば暖冬の冬は雪が多いのが通常ですが、今年はその雪も数える程しか降らず、春になってからの水不足が心配されます。

そして春を迎えると平成の御代も残すところわずかとなります。四月三十日には「退位の礼」が、「正殿の儀」より御代が変わり、攘位と即位の一連の行事が始まり、十一月十四日・十五日の「大嘗祭」をもって終了いたします。四月に発表される新しい元号も気になるところですが、先ずは皇室の弥栄を祈念すると共に、新しい御代が災害なく穏やかに皆様が過ごせることをお祈りいたします。

最後に、平成最後の半年間を無事に過ごせたことを御嶽大神に感謝し、毎年丁寧に教授下さる先生方、ご奉納頂きました皆様、各種祭典や行事に御協力・御協賛下さいました崇敬者の皆様、各所関係機関の皆様、厚く御礼申し上げます。また、川崎市・市ノ坪御嶽講・講元 横山恒好様、川合深禮様、写真家 鶴巻育子様、玉稿を有難うございました。

平成三十一年 三月 八日発行

編集 武蔵御嶽神社

(年二回発行・非売品)

TEL 〇四二八(七八) 八五〇〇
FAX 〇四二八(七八) 九七四一

http://www.musashimitakejinja.jp/

印刷 (株)成和印刷